

論文審査の要旨

報告番号	乙 第 3120 号	氏 名	福田賢一郎
論文審査担当者	主査 弘重壽一 教授 副査 本田一穂 教授 副査 稲垣克記 教授		
<p>(論文審査の要旨)</p> <p>患者に対する医療安全の確保は病院における危機管理の骨格である。福田らは 2014 年 4 月から 2018 年 3 月までの 4 年間にコードブルーの要請があった症例 129 例を対象として解析を行った。</p> <p>院内急変のうち入院患者は 41.0%であり、平均年齢は 63.6 歳であった。心肺停止症例は 26.4%であり、平均年齢は 71.2 歳であった。心肺停止症例の 82.4%は入院患者であった。発生頻度は入院 1,000 人当たり 4.36 人であった。心肺停止患者のうち 44%で蘇生に成功したが、神経機能が急変前まで改善した例は心肺停止症例の 20.6%のみであった。心拍再開までの時間が短い症例で神経機能予後は良好であった。</p> <p>上記より、昭和大学病院および昭和大学付属東病院では院内心肺停止の発生頻度は過去の報告よりは少ない傾向にあったが、今後の院内急変対応の課題としては院内心停止患者の救命率をより向上させること、さらには院内心停止発生率をさらに低下させるため RRS の導入を含めたシステムの構築が必要であると考えられた。院内急変あるいは院内心肺停止を予防することが将来的な病院の医療安全の確保の方策として極めて重要であるとした。</p> <p>以上より、RRS 導入前にコードブルーの症例を検討したことで、新たな知見が得られており、学術論文に値すると判断した。</p> <p>論文題名:昭和大学病院および昭和大学付属東病院における予期せぬ院内急変事例についての検討</p> <p>掲載雑誌名:昭和学士会雑誌 第 80 巻 第 1 号 2020 年 掲載予定</p>			

(主査が記載、500 字以内)